



IB Learner Profile No. 3: Risk-takers



挑戦する人

校長 青山 直志

保護者の方から、あるご指摘を受けました。それは、学校通信5月号でIB「10の学習者像」の図をお示したところ、挑戦する人が **Courageous** となっているが、**Risk-takers** ではないか、というものでした。えっ？と驚いて確認してみると、確かに！（学校HP「学校生活」に掲載中）

この「挑戦する人」という資質は、英語では現在「**Risk-takers**」と表現されていますが、2005年までは「**Courageous**（勇気のある人）」という言葉が使われていたようです。この言葉の変遷には、IB教育が目指す人間変革の深いメッセージが込められています。「**Courageous**（勇気）」という言葉は、私たちが困難に立ち向かう際、心の底から湧き上がる強い意志を想起させます。それはそれで非常に素晴らしい資質ですが、しかし、国際バカロレアは時代が進む中で、これからの予測困難なグローバル社会を生きる子どもたちに必要なのは、単に精神的な強さとしての「勇気」を奮い立たせることだけではない、と考えました。

新しく採用された「**Risk-takers**」という言葉は、先の展開が完全に予測できない状況：リスクを正しく認識した上で、自らの知恵と戦略、そして決意をもって主体的に一歩足を踏み出す姿勢を意味しています。つまり、無謀な蛮勇ではなく、不確実な現実に対して「機知に富み、かつ決意をもって立ち向かう人」へと、より具体的で実践的な姿へと定義がアップデートされたのです。

冒頭のご指摘には、IB教育への深いご理解があってこそと心からの敬意を表すと共に、保護者の皆様には子供たちの日々の探究活動をつぶさに観察していただき、時にはご助言いただければと思います。

さて、今月は本校の伝統行事である富浦臨海学校が控えています。子どもたちにとって、親元を離れ、波が寄せる広大な海へと足を踏み入れる臨海学校は、人生におけるまさにこの **Risk-takers** としての資質が試され、育まれる最高の舞台です。海は、プールのように底が見えるわけでも、波が一定なわけでもありません。自然の雄大さと厳しさを肌で感じながら、仲間と声を掛け合い、波を乗り越えていく。そのプロセスの一つひとつが、子どもたちにとっては未知の領域（不確実性）へのアプローチです。最初は水への恐怖心があったり、泳ぎきる自信が持てなかったりするかもしれませんが、**Courageous** だけで闇雲に突き進むのではなく、自分の体調や仲間の声に耳を傾け、知恵を絞りながら「やってみよう」と決意し、自分の限界を少しだけ押し広げようとするとき、子どもたちは本物の **Risk-takers** へと成長していきます。昨年は、海水を何度も飲み込んだ恐怖で、涙する子供たちもありました。しかし、その経験を振り返り（**reflection**）、「泳ぎ方をこう変えてみよう」と果敢にチャレンジしようする姿勢を獲得していくプロセスこそが重要なのです。

本校の教職員一同は、子どもたちがこの「挑戦する人」へと脱皮していく姿を、安全面での万全な配慮のもと、力強く後押ししてまいります。先日26日（金）には臨海学校に同行する、社会人を含むOB・OG（のべ40名）の打ち合わせがランチルームで行われました。全員が同じゴールに到達することを目指すのではなく、一人ひとりが自分の「少し先にある壁」に気づき、それを乗り越えようとするプロセスに伴走（伴泳？）したいと考えています。

臨海学校は5・6年生の行事であります。その他の学年の子供たちも、臨海学校という未来を見据えてほしい。そして、長い夏休みが何かに挑戦する大きな機会になればと思います。各ご家庭におかれましても **Risk-takers** をテーマに計画を立ててみてはいかがでしょうか。



昨年はカムチャッカ沖地震の影響で6年男子の大遠泳は中止でした